

市政記者各位

令和5年10月25日

福岡市博物館では、11月7日より 「第35回新収蔵品展」を開催します。

福岡市博物館は、皆さまからの寄贈・寄託等に支えられ、これまでに歴史、考古、民俗、美術の各分野にわたる19万件以上の資料を収集してきました。この度、新たな収集資料をご紹介します「新収蔵品展」を開催いたします。ぜひご取材くださいますようお願いいたします。

「第35回新収蔵品展 ふくおかの歴史とくらし」

福岡市博物館が令和2年度に受け入れ、整理を終えた3,647件の資料のうち、厳選した約100件を、「近世以前のふくおか」「近代福岡の記憶」「祭りと儀礼の世界」「絵師と職人の仕事」という4つのテーマでご紹介します。本展覧会を通じて、身の回りの様々なものが価値ある資料となりうることを知っていただき、博物館の活動にご理解・ご協力をいただける機会となれば幸いです。

会 期：令和5年11月7日（火）～令和6年1月28日（日）

場 所：福岡市博物館2階 企画展示室1～4

料 金：一般200円、高大生150円、中学生以下無料

※常設展示室・企画展示室共通、11月3日（金・祝）の文化の日は無料



戦災を受けた市庁舎周辺の写真



コロナ禍の流鏝馬で使われた的



小呂島の祇園山笠行事の山笠飾り

※そのほかの展示資料は別紙リーフレットをご参照ください

感謝状贈呈式

新収蔵品展にあわせ、資料寄贈者の方々への感謝状贈呈式を開催します。

日 時：令和5年11月25日（土）10：30～11：15

場 所：福岡市博物館1階 講堂

■お問い合わせ先 福岡市博物館 学芸課 松村
電話 092-845-5011 FAX 845-5019 〒814-0001 早良区百道浜 3-1-1



第13回九州沖縄八県連合共進会写真
(明治43年)〔購入資料〕

第35回新収蔵品展

ふくおかの歴史とくらし

令和5年11月7日(火)～令和6年1月28日(日)

企画展示室1～4

開催にあたって

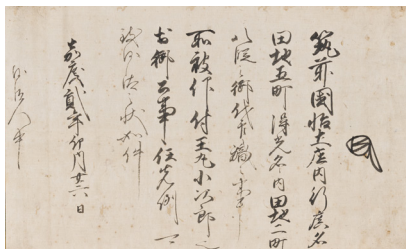
福岡市博物館は、開館の7年前(昭和58・1983年)の博物館建設準備室発足以来、40年間にわたり考古・歴史・民俗・美術の各分野の資料収集を続けてきました。寄贈や寄託、購入によって収集した資料の数は19万件以上にのぼります。

収集した資料を後世に確実に引き継ぐとともに、展示や研究に有効活用するため、当館では、新たに収蔵されるすべての資料について調査と整理を行い、そのリストを『収蔵品目録』として刊行しています。また、目録刊行にあわせて、博物館の資料収集活動を広く市民の皆様にご知っていただくため、『新収蔵品展』を開催し、新たに加わった資料をご覧いただける機会を設けています。

35回目を迎えた今回は、『収蔵品目録』第38号に掲載した令和2年度収集資料3647件の中から「ふくおかの歴史とくらし」に関わる約100件の資料を選し、「近世以前のふくおか」「近代ふくおかの記憶」「祭りと儀礼の世界」「絵師と職人の仕事」の4つの章で紹介いたします。

本展の開催にあたり、貴重な資料をご提供いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。また、ご観覧いただいた皆様にとって、この展覧会がふくおかの歴史と人々のくらしについて、より一層の関心を寄せていただく機会となることを祈念するとともに、福岡市博物館の資料収集活動に、ご理解とご協力をいただける機会となれば幸いです。

一 近世以前のふくおか



(上) 怡土庄に関する「丸文書」某袖判書下。嘉慶2(1388)年4月26日付。
〔購入資料〕



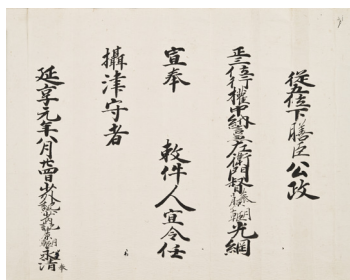
(上) 箱崎(東区)で、入れ子状に重なった状態で採集された銅鋳2点。錫を多く含むいわゆる佐波理(響銅)で、平安時代のもつとみられる。
〔湊敏郎資料〕



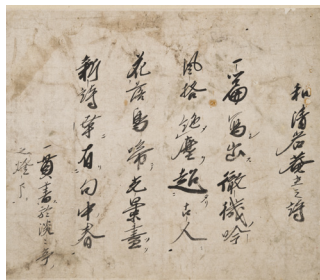
(上) タイ中部、スコタイ窯で14～16世紀に焼かれた陶磁器。白化粧土の上から鉄絵で魚の文様を描く。福岡アジア文化賞者の寄贈者が来日した際に博多遺跡群出土の類似資料の存在を知り、寄贈に至った。
〔Charnvit Kasetsiri 資料〕



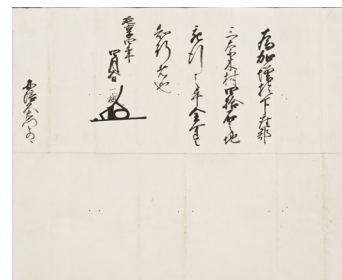
(上) 歴代当主が福岡藩の御料理人頭を勤めた二川家に伝った初代二川五郎右衛門の肖像画。黒田長政に仕えた。
〔二川秀臣資料〕



(上) 香椎宮(東区)の大宮司等を代々勤めた武内家に伝わった「口宣案写」で、摂津守に任されたもの。延享元(1744)年8月24日付。
〔武内公麿資料〕



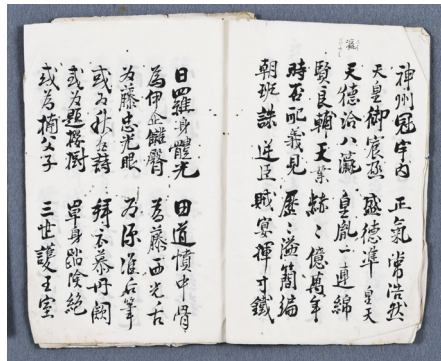
(上) 江戸時代中期に、三奈木黒田家当主の黒田一貫から、菩提寺である清岩寺(現・朝倉市)の住職へ贈られた漢詩。「和清岩寺庵主之詩」と題する。
〔清岩寺資料〕



(上) 福岡藩筆頭家老・三奈木黒田家当主の黒田一誠に仕えた安陪久右衛門に与えられた加増の知行宛行状。延享4(1747)年4月5日付。
〔安陪光正資料〕



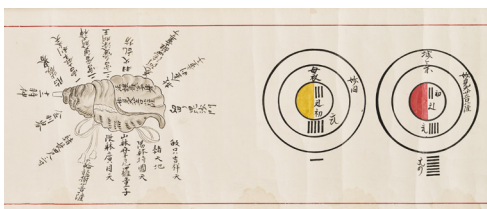
(上) 江戸時代に遊郭がおかれた博多柳町の大門のものとして伝来した鍵と錠前。いずれも長さが20 cm以上あり、重量は合わせて5 kg近い。〔村上妙祥資料〕



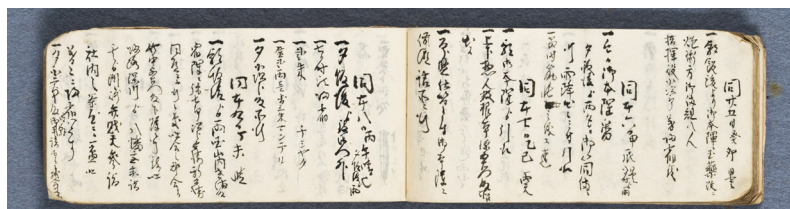
(上) 幕末福岡藩の尊王攘夷派・月形洗蔵の作「傍正気歌併序」の写本。中国・南宋末の文天祥が、元軍に連行された際に作った「正気歌」に倣い、洗蔵が獄中で作ったとされる。〔郡田純一資料〕



(上) 江戸時代後期の浄瑠璃本「妹背山婦女庭訓」。浄瑠璃の音曲語りの詞が台本としての独特の字形で記される。〔平田将成資料〕



(上) 江戸時代の法螺貝の流派であった清正流の秘伝書。法螺貝の各部分を指示した精密な絵図のほか、吹口の操作や吹き方を示すと思われる図が多数載せられる。〔川上幸衛資料〕



(上) 福岡藩士幸田家に伝わったもので、幕末期の当主・幸田弥右衛門良能が、慶応4/明治元(1866)年の戊辰戦争において関東に出陣した際の日記「関東在陣中并道中日記」。出陣中の良能の暮らしがうかがえる。〔幸田成孝資料〕



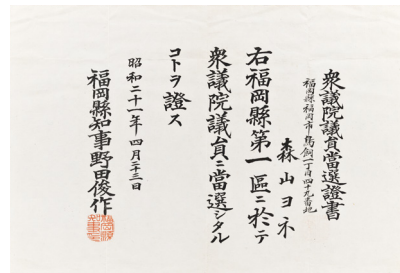
(上) 松下電器産業株式会社(現・パナソニック)が昭和40年代から50年代にかけて製造・販売した電気炊飯器。正面にダイヤル式のタイマーを設ける。〔津上禮三資料〕



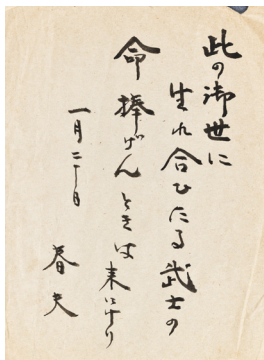
(上) 江戸時代後半以降に旧瓦町などで生産された「博多素焼」の中心的な製品のひとつである博多七輪。西浦(西区)沖の海底から引き揚げられたもの。〔三苫亨資料〕



(上) 江戸時代末期に幕府が発行した貨幣・文久永宝。その後、近代日本では江戸時代を継承して錯綜していた貨幣制度を一新し、金本位制度を採用していく。〔西島慎之介資料〕



(右) 終戦から間もない昭和21(1946)年、衆議院議員総選挙・福岡県第1区でトップ当選した森山ヨネの当選証書。久留米市出身で、各地の女学校や師範学校で教鞭をとり、米留学後、福岡県女子専門学校教授となった人物。〔森山ヨネ資料〕



(上) 昭和20(1945)年に学徒出陣で出征した兵士の書。「特攻隊員筆跡」と書いた封筒に入っていた。〔川島秀子資料〕



(上) 昭和28(1953)年頃に撮影された冷泉保育園運動会の写真。戦後の子どもたちの暮らしに関する記録。〔牟田節子資料〕



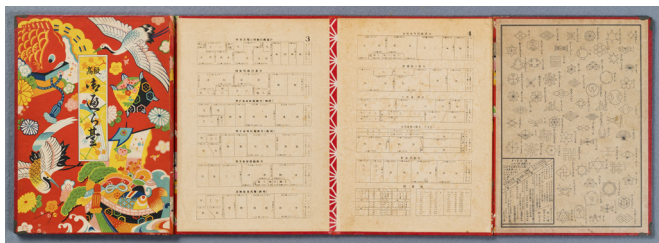
(上) 昭和20(1945)年12月に米軍隊員が撮影した、戦災を受けた市庁舎周辺の写真。〔Douglas J. price 資料〕



(上) 昭和16~18(1941~43)年に陸軍の教育隊の仮装を撮影した写真。寄贈者の父が所持していたもの。〔豊倉俊行資料〕

二 近代ぶくおかの記憶

三 祭りと儀礼の世界



(上) 寄贈者の母がアイロンがけに使用していたヘラ台。裏には、着物の背に魔除けとして縫う「背守り」の見本がつく。〔袈裟丸良子資料〕



(左) 戦前に製作された子ども用の羽織。2世代にわたって宮参りや七五三等で着用されたもの。〔植木陽一郎・澄香資料〕



(上) 早良区脇山・谷口地区で行われていた谷口神楽で使用された面。同神楽は昭和43(1968)年頃に途絶えた。〔十二社神社資料〕



(上) コロナ禍で博多祇園山笠が延期となった際に特別に販売された祇園饅頭の包み紙。〔森弘子資料〕



(上) 山王宮日吉神社(博多区)の夏越祭で使用された人形と茅の輪。〔山王宮日吉神社資料〕



(上) 右と同じく、大山積神社で使われた茅の輪を分割したもの。お札や注連縄等を取り付け、門前等の魔除けとする。〔結城九州男資料〕



(上) 大山積神社(西区金武)のワゴシマツリで使われた茅の輪を分割したもの。〔牛尾昌義資料〕



(上) 婚約儀礼のひとつである結納で結婚の証として男性方から贈られたもの。福岡の結納品には、お茶が含まれるのが特徴。〔久野隆志資料〕



(上) 7月15日に行われる小呂島(西区)の祇園山笠行事(市指定無形民俗文化財)の山笠飾り。〔小呂島町内会資料〕



(上) 博多祇園山笠で使用される大黒流・旧上綱町(現・須崎町1区)の当番法被。昭和41(1966)年以前のもの。〔すの一町総代資料〕

(左) 飯盛神社流鏝馬行事(市指定無形民俗文化財)で使用された当たりの。令和2(2020)年は一部に新型コロナウイルスをあしらった。〔飯盛神社資料〕



(右) 諺「見ざる・言わざる・聞かざる」をあらわした猿の根付。細やかな彫技や飄逸な猿の姿などから本格的な根付師の手になると思われる。〔畑田由布子資料〕

(左) 香椎宮や志賀海神社(ともに東区)の建築に宮大工として携わった亀田吉郎平(満秀)が、明治44(1911)年に作成した建築意匠製作の参考用木彫。〔亀田和子資料〕



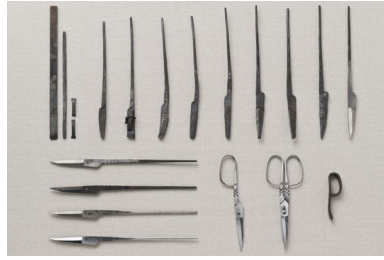
四 絵師と職人の仕事

(右) 居合を行っていた寄贈者の夫が収集した無銘の刀。備前の大宮派の作と伝えられる。室町時代のもの。〔大坪幹人資料〕





(上) 博多織の電気織織技術に関する記録写真を集めたアルバム。〔安松奈津子資料〕



(上) 福岡県伝統工芸品・博多鈇の製作工程見本。博多鈇の製作技術は、技術保持者の他界により途絶えている。〔中村滝雄資料〕

(左) 戦時期に一時途絶えた博多絞の再興に尽力した博多絞製造有限会社(昭和27年に生野商店として設立)で使用された絞り工程見本(絞括り)。資料群には他にも生産用具や製品サンプルが多数含まれる。
〔博多絞製造有限会社資料〕



(右) 博多絞製造有限会社(中央区大濠)で製作された生地で作られた着物。「蜘蛛入り柳絞り」の技法が用いられる。〔中西真由子資料〕



(右) にわか面があしらわれた絞り染めの手拭い。博多絞の製造販売「武田虎雄商店」に関連する資料。〔武田虎雄資料〕



(上) 今宿上町天満宮(西区)の夏季大祭「オシオイトリ」で使用された大燈籠絵「川中島大合戦之図」。作者は絵馬師の白水耕雲と思われる。〔今宿上町天満宮資料〕



(上) 江戸時代に制作された「群馬図屏風」。筆者は「幸信」とある。近世から近代に福岡で砂糖・油類を扱っていた商家・園田家に残されたもの。〔鳥越雅美資料〕



(上) 江戸時代前期、福岡藩御用絵師だった狩野昌運筆の「深山古松図・月に薄図」。〔高橋郁資料〕

ご協力いただいた方々
(寄贈・寄託者名/順不同 敬称略)

Charvut Kasetsiri
Douglas J.Price

安陪等思 植木澄香

植木陽一郎 牛尾昌義

大塚茂喜 大坪佐知子

緒方照巳 亀田和子

川上幸衛 川島秀子

北崎勝洋 郡田純一

袈裟丸義則 幸田成孝

白部博司 高橋郁

武内公麿 武田真理子

津上公 豊倉俊行

鳥越雅美 中西真由子

中村滝雄 西島慎之介

畑田由布子 久野隆志

平田将成 二川秀臣

三苦亨 湊敏郎

牟田節子 村上妙祥

森弘子 森山優

安松奈津子 結城九州男

飯盛神社

今宿鬼すべ保存会

小呂島町内会

山王宮日吉神社

清岩寺

福岡市博物館 〒八四一〇〇〇一

福岡市早良区百道浜三丁目一番一号

☎〇九二一八四五―五〇一一